

「若手研究者支援」国際学会発表	
日本語教育における AI 教育支援システムの過去と未来	
氏名 Liu Muxuan	所属 理学専攻 博士後期課程 1 年
期間	2023 年 9 月 1 日～ 2023 年 9 月 3 日
学会・分科会名	豪州日本研究学会研究大会 / 国際繫生語大会 (JSAA-ICNTJ2023)
場所	オーストラリア・シドニー
発表者名、 発表形式	Muxuan Liu 口頭発表

## 内容報告

### 1. 本学会発表の目的

本学会発表の主要な目的は、言語学、日本語教育、コンピュータサイエンスの融合に焦点を当て、個別にカスタマイズされた学習支援システムの実現可能性を調査することである。現在、日本は少子高齢化の進行に伴い、外国人労働者を積極的に受け入れており、在留外国人の数は増加の一途を辿っている。しかし、この増加にもかかわらず、多くの外国人労働者が、時間的・経済的な理由で日本語を学ぶ機会に乏しく、日本語教育の「空白」が一つの社会的な問題となっている<sup>1)</sup>。

従来の日本語教育アプローチでは、主に学習教材に依存し、日本語教師の不足や、学習者のニーズに適切に応えられないという課題が存在している。本学会発表では、教師と学習者が直面する実際の課題を解決するために、AI 技術を活用した日本語学習支援システムが外国人の日本語の独学をサポートできる可能性に焦点を当て、その有用性や制約について議論する。また、国際的な女性リーダーを育成するという観点で、外国人女性労働者に教育の機会を提供することの社会的意義についても検討する。

### 2. JSAA-ICNTJ2023 の位置づけ

JSAA-ICNTJ2023 は、日本研究とその関連分野からの研究者と実務家が一堂に会するものであり、日本研究における多様な分野と関連する研究を包括し、国際的な専門家の対話のプラットフォームを提供する重要な学術イベントである。今年度の学会は、特にポストコロナ時代における「ヒト」「ことば」「モノ」「情報」などの概念の変容、越境、融合、社会の多様性と動態性に焦点を当て、批判的に考察することをテーマとし、グローバル化と脱植民地化の新しい視点から日本（語）研究の未来を探求する場となっている。日本研究において新たな知識の創出と共有を促進し、文理融合的なアプローチを奨励するものであり、参加者による有益な知識交流とアイデアの共有が期待されている。

### 3. 発表で得られた成果と今後の展望

本学会発表を通じて、既存の日本語教育支援システムに焦点を当て、開発方法と用途を詳細に検証し、さらに、日本語 4 技能（読む、聞く、話す、書く）に基づいて各システムの機能を分類し、学生と教師の異なるニーズを明らかにした。これらの分析により、将来のシステム開発に向けた方向性が明確化された。また、最新の AI 技術を用いて、学生と教師の要求に合致する教育支援システムの基本プロセスを議論し、個別にカスタマイズされた教育体験を提供し、学生と教師のニーズに効果的に対応できる可能性を強調した。

これらの研究成果は将来的には日本機能言語学会、日本教育工学会、人工知能学会、言語処理学会への投稿や学術誌の執筆に活かされる予定である。今後は、最新の AI 技術を利用した日本語教育支援システムの開発、AI モデルに利用しやすい語学知識データベース/コーパスの開発、システム上での教育法の運用法などに関する深化された研究を展開し、外国人労働者や異なるバックグラウンドを持つ学習者に適したリソースを提供し、日本語教育のアクセス性を向上させることを目指している。

注

1. 文化庁. 令和 3 年度日本語教育実態調査報告書「国内の日本語教育の概要」ホームページ：  
[https://www.bunka.go.jp/tokei\\_hakusho\\_shuppan/tokeichosa/nihongokyoiku\\_jittai/r03/93753802.html](https://www.bunka.go.jp/tokei_hakusho_shuppan/tokeichosa/nihongokyoiku_jittai/r03/93753802.html)

りゅう ぼせん／お茶の水女子大学大学院 人間文化創成科学研究科 理学専攻

- The Past and Future of AI Educational Support Systems in Japanese Language Education
- Muxuan Liu